

資料編

<個別の指導計画・個別の教育支援計画・個別の移行計画の例>

視覚障害特別支援学校 個別の指導計画 A

生徒氏名	中学部 1 年 ○○○○（女） H 年 月 日生	
作成者	△△（担任） H 年 月 日作成	
家庭環境	両親，妹，弟，	
診断名 合併症	××症（××病院，○○Dr） 合併症なし 遠距離視力両眼△ 近距離視力両眼×	
指導の経過	1. 不安や心配事があるときは，話さなければ伝わらないこともあるということを理解し，自分の体調や思いなどを言葉にすることができる。喜怒哀楽の感情も豊かになり，素直に表現している。 2. <以下略>	
生徒の実態	【生活等の実態】 1. 話を良く聞き，自分の考えをもつことができる。意志が強く，自分の決めたことは最後までやり通す。友だちや年下の子に対しては，自分から関わろうと優しく声をかけたり，遊んだりすることができる。 2. <以下略> 【学習の実態】 1. 通常教育課程に沿って行い，行事，教科などで A 中学校と交流をしている。週に一度，音楽の授業に参加し，教科交流をしている。 2. <以下略>	
総合的なとらえ （可能性の芽）	1. 係の仕事（水仙祭実行委員やレク係，国語数学係など）に責任を持たせ，計画を立て活動をする中で，自分自身を見つめ，自分の力を実感できるようになるだろう。その中で感謝の気持ちを持って生活していくようになるだろう。 2. <以下略>	
	生徒の願い	保護者の願い
	1. 係の仕事などで先を見て行動したい。 自分にはできないことを，自分の力を生かせることをやりたい。 2. <以下略>	1. 自分の納得のいくまで学習をし，力を伸ばして欲しい。 2. <以下略>
	担当の願い	1. 係の仕事に責任を持ち，先を見て活動して欲しい。 2. <以下略>
教育課題	1. 係の仕事や普段の生活などで，思いやりや，感謝の気持ちを持ち，友だちと協力しながら生活をする。 2. A 中との交流をする中で，自ら人と関わる気持ちを高め，集団生活のルールを学ぶ。 3. 丁寧に学習に取り組む。	
手だて	1 ①. 友だちの優しい気持ち，好意で助けてくれた場面を取り上げたり，道徳等で主人公の気持ちに寄り添うような物語を読んだりする中で，いつも誰かに支えられながら生活していることに気づかせ，自らも協力した喜びが感じられるように声がけをしていく。 ②. 学校祭実行委員・レク係，国語数学係として，今何ができるかを考えられるようにして計画を立て責任を持って仕事をこなせるよう声がけをしていく。 2 <以下略>	

聴覚障害特別支援学校

自立活動個別の指導計画（後期まとめ）

小学部 ○学年

○○ ○○

担任 ○○○○ ○○○○

○聴力 右85dB 左92dB				
○補聴器の機種名 リオン HB-15				
装着日	500	1000	2000	
右	45	55	70	
左	45	50	75	

生育歴・家族環境 ・両親、兄（中学部2年）、祖父 ・家庭では手話を中心にやりとりしている ・早い時期から補聴器活用、母子教室での学習を始めている

本人の願い	保護者の願い	教師の願い
・高学年の男の子のように、思い切り体を動かして、何でもできるようになりたい ・「気持ち」を、友だちや先生にしっかりとわかって欲しい	○友だちへのかわやをを広げ、自分の出し方につけて欲しい ○鉛筆や箸など正しくもって、丁寧に字を書いて欲しい	・やりとりを分かりやすくできるようにして、ゆっくりと物事をとらえられるようになって欲しい ・使える語彙を増やして、ことばで受け止めたり、考えたりする力を伸ばして欲しい

実 態	課 題	具 体 的 な 指 導 の 手 だ て (可能性の芽)	一 年 間 の 育 ち と 今 後 の 課 題
健康の保持 ・補聴器の電池切れにすぐに気づき、汗をかいたときには、タオルでよくぬぐってから装着している 心理的な安定 ・その時間に行うことをはじめに提示することで、学習や活動に集中して取り組むことができるようになった ・絵や指文字や手話など視覚的な手がかりを情報源にして活動に参加したり、できることやわかることとから始めることで、友だちを待ったり授業や活動に積極的に取り組んだ	◇助詞までを一区切りとし、語尾までをひとまとまりとしたやりとりになれる ◇「答え」や「結果」を急がずに「どうして」「どうやって」を説明しようとする ◇トラブルの機会をとらえ、自分の「言い方」「表情」と「言いたかったこと」を考える	○音楽や自立活動で、「リズム打ち」「ことばあそび」を取り入れる。メトロノームを使って、ことばのリズムを視覚的にとらえる ○「～したから～になった」「どうしてだと思っ？」等やりとりして、途中の経過を一緒に考える ○その時その場で、「どうしたかったのか」をきく。また、道徳や自立活動、毎日の日記や行事の作文を通して、自分を振り返って考えたことを文字に表す ○姿勢が崩れる原因となるもの（イスの高さやデスクマット、小物等）環境を工夫し、短期の目標を一緒に決めて、帰りの会などに少しずつ評価する	○日記の音読を毎日繰り返しながら、ゆっくりと発音する練習を積み重ねた。発音の中で省略したり言い急いだりする「イ列」「エ列」のことばを意識することで、話し方がゆっくなりなり分かったりやすくなった（「しまった。」→「ました。」） また、音楽の太鼓では、みんなと呼吸を合わせて、一定のリズムを繰り返すことができ、そのことがとてもうれしかった →音読の中で意識できていることを日常の会話へつなげる ○1枚や2枚の絵から、その前後を想像してお話を作ることができた。友だちとの話し合いの中でも、「～だからおかしいよ」「～までは分かったよ」というやりとりができるようになってきた →自由に発想したり考えたりすることと、ひとつの道筋をじっくりと考え、とらえる学習へとつなげる ○気持ちをコントロールする力がついた。自分のいろいろな感情を、周囲の状況や心情と考え合わせて整理することができるようになっている。そうした中で「自分」を見つめる力がついてきた →気持ちの表現とともに「姿勢」「表情」の大切さをいろいろな場面で目標としていきたい ○助詞までを一区切りとして話したり、書いたりする力が身についている。暗唱文での記憶力がついて、文章を書くときの助詞の判断が、よりスムーズに、よりの確になつてきている。接続詞も上手に用いられるようになってきた。 →日常のやりとりが、単語や擬音語、擬態語だけのやりとりではなく、文章でのやりとりになるようにしたい ○「おは…」とことばを探し、考える姿が見られるようになってきて、「丁寧な書き方」が多くなってきた（ノートや連絡帳）。自分で意識して「1、2…」と文字を記すリズムをゆっくりにしている場面も見られた →ことばで物事を見たり、とらえたりすることばがけをしなが、ゆっくりと記す習慣を今後も心がけたい ○文章を読んで情報を正しくつかめることが増えた（新聞の切り抜きや音読の質問、算数の文章問題 等） →日頃の会話の中で「語彙」を確実にしながら、文章を読むイメージを広げる読み方や読書へとつなげてい

【日々の生活の姿】 《基本的生活習慣》 ・ 食べ物を一口サイズに切り、スプーンやフォークに刺しておくと、自分から手を伸ばして握り、口の中に運ぼうとする。	【可能性の芽】 ・ 教師が手を添えて一緒に刺したり口に運んだりすることで、一人で刺して食べることができるだろう。
《コミュニケーション・情緒》 ・ 人とかかわることが大好きであり、生活の場を共にしたことの男子に積極的に関わろうとする。自ら挨拶したり接触しようとしたりするが、教師がいなかったところでは恥ずかしがり、隠れる。誰かが具合を悪そうにしていたり、痛がっていた場合には「大丈夫？」とやさしく声がけをする姿が見られる。	・ 人とかかわることが大好きであるため、対人関係のロールプレイを取り入れていくことで、基本的なマナーを身に付けることができるのではないか。
《知識・理解・技能》 ・ 好きなマークや看板を指差しながら、教師に話しかける。 ・ 色の鮮やかな本が好きで、眺めることを好む。	・ 様々な本を見る中で興味のある本を見つけることができるだろう。教師と一緒に興味のある本を見ることで気持ちを落ち着かせることができるだろう。
【本人の願い】	
【保護者の願い】 ・ 食事を一人で食べられるようになって欲しい。 ・ 布パンツで過ごせるようになって欲しい。 ・ 言葉や指差し、カード等で要求や気持ちを伝えることができるようになって欲しい。 ・ 絵カードや言葉等で危険な事がわかるようになって欲しい。	
【卒業後の生活】 ・ 中学部、高等部への進学を希望する。 ・ 作業所に通うことを考えている。	
【教師の願い】 ・ 基本的生活習慣を身につけて欲しい。 ・ 様々な活動を最後まで取り組んで欲しい。	

教育課題（ねがい）

○好きなことや活動を教師と一緒にみつけ最後まで取り組むことができる。 《めあて・見通し・意欲》 ○自分で食事をしたりトイレと排泄を結びつけたりする経験を積むことができる。 《基本的生活習慣》 ○自分の気持ちややりたいことを声や指差し等で伝えようとすることができる。 《コミュニケーション・情緒》
--

申し送り事項	中学部に入学したら、寄宿舎に入所したいと保護者は考えている。
---------------	--------------------------------

（記入者 〇〇 〇〇）

平成〇〇年度 個別の指導計画Ⅱと支援内容および見返し〔〇期〕

知的障害特別支援学校〇〇部 〇年〇〇組 氏名 〇〇 〇〇

教育課題（ねがい）

- 好きなことや活動を教師と一緒にみつけ自ら取り組むことができる。《めあて・見通し・意欲》
- 自分で食事をしたりトイレと排泄を結びつけたりする経験を積むことができる。《基本的生活習慣》
- 自分の気持ちややりたいことを声や指差し等で伝えようとするすることができる。《コミュニケーション・情緒》

教育課題に対する支援内容及び見返し（可能性の芽）

好きなことや活動を教師と一緒にみつけ楽しんで取り組むことができる。《めあて・見通し・意欲》			
	具体的ねがい	支 援 内 容	見 返 し
日常生活の指導	・ 教師と一緒に学校の周りをランニングすることができる。	・ 存分に体を動かすことができるように、思い切り走る区間を設定する。 ・ 1人で取り組めるように、ガソリンスタンドのマークや荷車の車輪、周りの様子を見ながら走ったり歩いたりする。 ・ 1人で走ったり歩いたりできるように、指差しの要求に応えながら走る。	・ 思い切り走ることができる場所で、教師の手を握って走り続けることができた。 ・ コースの脇にある看板に興味を示すことが増えてきました。教師との指差しながら2周走ることができた。
生活単元学習	運動会単元 「うんどうかい げんきモリモリエイエイオー」 ・ 運動会の雰囲気慣れ、走ったり綱を引いたりする活動を楽しむことができる。	・ 好きなキャラクターになりきることができるように、簡単なストーリーや衣装を用意する。 ・ 友だちとかかわりながら一緒に取り組むことができるように、友だちの様子を伝えたり、励ましの声がけをしたりする。	
個別学習	・ 本の読み聞かせのときに、落ち着いて絵を見て最後まで聞くことができる。	・ ゆっくりと見たり言葉のリズムを口ずさんだりできるように、はっきりとした輪郭や鮮明な色の絵本をゆっくりした音読で読み聞かせをする。	

○自分で食事をしたりトイレと排泄を結びつけたりすることができる。《基本的生活習慣》		
日常生活の指導	・ 自分でスプーンやフォーク、食器を持って食事することができる。	・ 食べやすいように、一口サイズに食べ物をカットしておく。 ・ 食器から口に食べ物を運び易いように、食べ物をフォークに刺したりスプーンに乗せたりしておく。

○ 学 部 の 特 色 の あ る 教 育 活 動

音 楽	・ 前に立つ先生の姿をじっと見ながら童謡をじっくりと聞いていた。リラックスタイムでは、オルゴールの音色を聞きながらゆったりとくつろいでいた。
-----	--

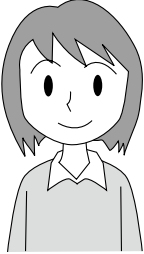
総 合 所 見

入学して新しい環境の中、新しい友だちや先生と一緒に過ごしていくことで、思い切り体を動かしたり落ち着いて生活したりすることができるようになってきた。
マッハ号や信南バス（小学部での通称）等の乗り物遊具に乗ることを楽しみに待つようになった。そこがお気に入りの場所になり、乗り物遊具が動いていなくてもいつまでも乗ってまわりの様子を見ているようになりました。

（記入者 〇〇 〇〇）

Aさんの個別の教育支援計画Ⅰ（例）

①平成〇 担任 〇〇〇〇	②平成〇 担任 〇〇〇〇	③平成〇 担任 〇〇〇〇	④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫

	氏 名	A さん		性別	女	生年月日	H〇. 〇. 〇	
	所 属	〇特別支援学校 小学部〇年						
	住 所	〇市〇123-1						
	連絡先	〇〇〇・〇〇・〇〇〇〇			緊急連絡先	〇〇〇・〇〇〇〇・〇〇〇〇		
	保護者	〇〇 〇〇			連 絡 先	〇〇〇・〇〇・〇〇〇〇		
	転入学	平成〇年〇月〇日〇〇特別支援学校1学年入学						
	転入学前所属	〇保育園			担当者	〇〇〇〇		

家族構成	〇〇〇〇（父）会社員	〇〇（母）	〇〇（弟〇歳）	〇〇（妹〇歳）
------	------------	-------	---------	---------

療育手帳	有	無	程度〔A1〕	番号（〇児〇〇〇〇）	交付年月日	平成〇年〇月〇日
身障者手帳	有	無	程度〔 〕	番号（〇児〇〇〇〇）	交付年月日	平成〇年〇月〇日

障 害 の 状 況	主 障 害	脳性麻痺による 体幹の機能障害			けいれん 発 作	有 無		
	他の障害	特記事項なし			緊 急 連絡先	〇病院（〇〇〇・〇〇・〇〇〇〇）		
	現在かかっている病院 等				服 薬	薬名 なし 時刻 朝 昼 夕		
	1 病院名	〇病院			医 療 的 ケ ア	なし		
発 達 の 状 況	歩 行	できる	一部介助	全介助	着衣着脱	できる	一部介助	全介助
	走 行	できる	一部介助	全介助	言語による会話	できる	一部介助	全介助
	階段昇降	できる	一部介助	全介助	非言語的コミュニ ケーション	できる	一部介助	全介助
	立 位	できる	一部介助	全介助	集団参加	できる	一部介助	全介助
	座 位	できる	一部介助	全介助	数 唱	できる	一部介助	全介助
	排 尿	できる	一部介助	全介助	数の大小	できる	一部介助	全介助
	排 便	できる	一部介助	全介助	形の弁別	できる	一部介助	全介助
	食 事	できる	一部介助	全介助	危険の認知	できる	一部介助	全介助
	諸検査	SM 社会生活能力検査（平成〇年〇月 検査者〇〇〇〇） 生活年齢〇歳〇ヶ月，社会年齢〇歳〇ヶ月，身辺自立〇歳〇ヶ月，移動〇歳〇ヶ月 作業〇歳〇ヶ月，意思交換〇歳〇ヶ月，集団参加〇歳〇ヶ月						

主 な 支 援 情 報	〇 生育暦	
	・ 1歳〇ヶ月	座位保持可能
	・ 2歳	〇保育園通所開始
	〇 通院	
	・ 〇ヶ月	〇病院通院開始 OT・PT
	・ 〇歳	〇病院通院開始
	〇 興味関心	ブランコ，滑り台等の遊具での遊び，本をペラペラとめくこと等
〇 食事	左手でフォークを持ち，口まで運ぶことができる。	
〇 情緒の安定	集団活動に落ち着いて参加することができる。	

Aさんの個別の教育支援計画Ⅱ

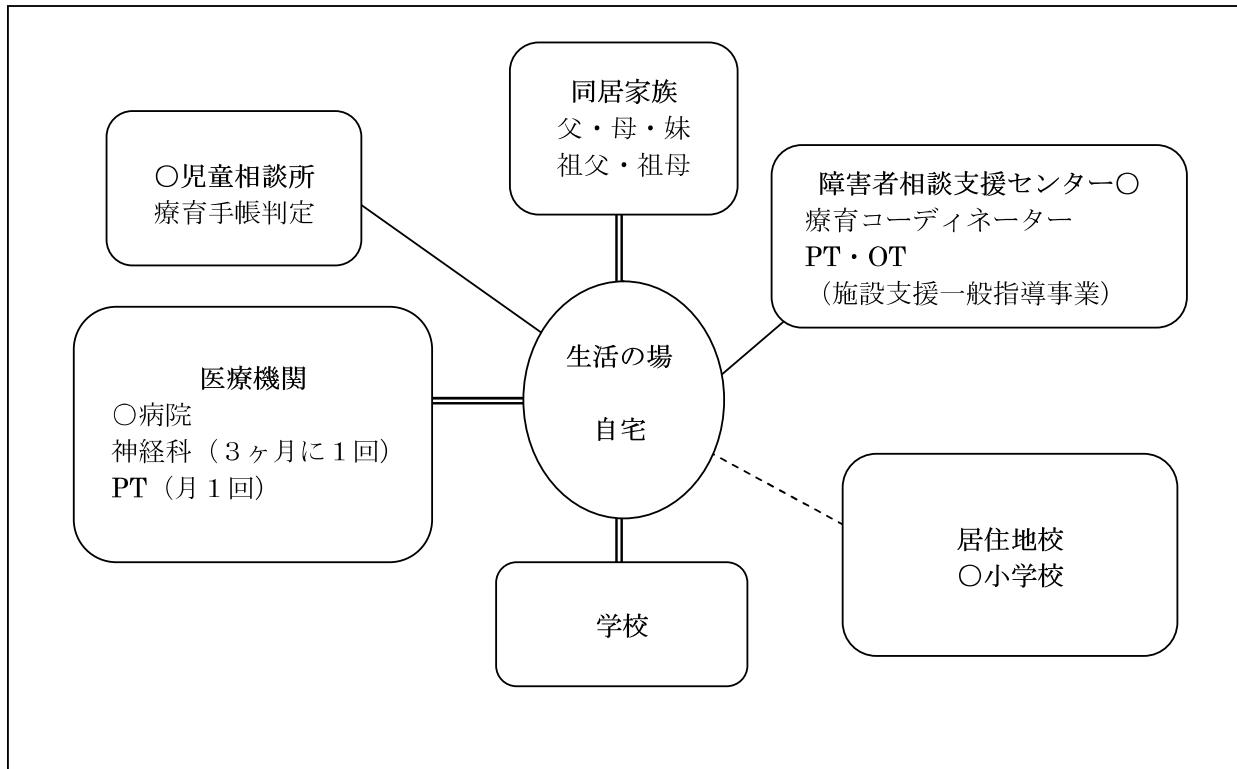
平成○年○月○日 作成 記入者 ○○○○

本人・保護者のニーズと支援の内容	
本人・保護者の希望〔現在および将来（3年後）〕 ・ たくさん歩いていろいろなところへ行きたい（本人）。 ・ 身辺自立（トイレ，着替え）ができるようになってほしい（保護者）。	
総合支援目標〔数年先（3年後）までに必要なこと〕 ・ 安定した歩行ができるようになる。 ・ 衣服の着脱や衣服をたたんでしまうことが少しずつできるようになる。	
具 体 的 な 支 援 目 標 ・ 支 援 内 容	家庭 支援目標・内容 ・ 歩く経験を増やしていく。 ・ 自分でできることは自分で行うよう促していく。
	学校 機関名〔特別支援学校〕 担当者〔○○○○〕 連絡先〔○○○○・○○・○○○○〕 支援目標・内容 ・ 坂道歩行や階段昇降等の歩行運動を行う。 ・ 朝や帰りの時間に着替えの練習を行う。
	寄宿 ・ 利用なし
	医療 機関名〔○病院〕 連絡先〔○○○○－○○－○○○○〕 支援目標・内容 ・ 神経科 担当者〔○○D r〕 ・ PTの訓練を行う。
	福祉 機関名〔○○市福祉課〕 担当者〔○○○○〕 連絡先〔○○○○－○○－○○○○〕 支援目標・内容 … タイムケアサービス等の情報提供 機関名〔○○市保健センター〕 担当保健師〔○○○○〕 連絡先〔○○○○－○○－○○○○〕 支援目標・内容 …
	地域・余暇 機関名〔障害者支援センター○〕 担当者〔○○○○〕 連絡先〔○○○○－○○－○○○○〕 支援目標・内容 …生活上の相談・支援 機関名〔障害者支援センター○〕 担当者〔○○○○〕 連絡先〔○○○○－○○－○○○○〕 支援目標・内容…長期休みの生活支援
	労働 機関名〔○○市福祉課〕 担当者〔○○○○〕 連絡先〔○○○○－○○－○○○○〕 支援目標 支援内容
	その他 機関名〔 〕 担当者〔 〕 連絡先〔 〕 支援目標 支援内容

Aさんの個別の教育支援計画Ⅲ

平成○年○月○日作成 記入者 ○○ ○○

Aさんの社会資源ネットワーク（記入例）



※ < **=====** 多い **—————** 普通 **-----** 今後連携を深めたい >

福祉・医療・労働等関係諸機関の支援経歴

開催日（会場）	平成○年○月○日
出席者 （支援機関名・職種）	○○○○さん（障害者支援センター○○○療育コーディネーター） ○○○○（担任）
主な支援・相談内容	
・Aさんの成長の様子について ・○○病院では、OTを受けていないので、OTを行いたい。 ・障害者支援センターの関係でお願いのできるOTの先生がいるので、都合がつくときに学校に来ていただき、Aさんの様子を見て相談できるようにする。	

利用期間	平成○年○月○日（PT）・平成○年○月○日（OT）
出席者 （支援機関名・職種）	○○○○さん（○病院・PT）・○○○○さん（○病院・OT） ○○○○（担任）
担当者	主な支援・相談内容
自立活動研修会 ○○○○（○病院・PT） ・横座りの状態から教室のテーブルなどを使っての立ち上がり方について ・靴の履き方、脱ぎ方について ○○○○（○病院・OT） ・ビーズやアイスクリームのスプーンを摘んでペットボトルの中に入れる	

利用期間	平成○年○月○日
出席者 (支援機関名・職種)	〇〇〇〇さん (障害者支援センター○・療育コーディネーター) 〇〇〇〇さん (障害者支援センター○・OT), 〇〇〇〇 (担任)
担当者	主な支援・相談内容
〇〇〇〇 (障害者支援センター○・OT) ・自分でできることを増やすために、かかわり手が行うのではなく、A さんが行うのを待つようにする。 課題として、風船を足でキックする、両手を浮かせた状態で遊びながらビーズを操作する、先生から もらって入れることや A さんが器を持ちその中に入れる等の操作をする	

利用期間	平成○年○月○日
出席者 (支援機関名・職種)	〇〇〇〇さん (障害者支援センター○・療育コーディネーター) 〇〇〇〇さん (障害者支援センター○・OT) 〇〇〇〇 (担任)
担当者	主な支援・相談内容
・着替え、排泄、机・廊下の手すりを利用しての立ち上がり動作の様子を参観する。取り組みの評価を 含め来年度も継続して相談を行う。	

利用期間	平成○年○月○日
出席者 (支援機関名・職種)	〇〇〇〇さん (障害者支援センター○ 療育コーディネーター) 保護者 (母) 〇〇〇〇 (担任)
担当者	主な支援・相談内容
・A さんの成長の様子について ・上半身を大きく動かすための支援や課題について ◇障害者支援センター○・OT や PT に見ていただき相談をする必要有り。	

利用期間	平成○年○月○日
出席者 (支援機関名・職種)	〇〇〇〇さん (障害者支援センター○・PT) 〇〇〇〇さん (障害者支援センター○・OT) 〇〇〇〇 (担任)
担当者	主な支援・相談内容
障害者支援センター○・PT ・上半身の筋力を強化するための指導方法として、腕を上げるような課題設定をする (例えば、物を上 に置く、取る。大きなボールを転がす。雑巾がけ、台車を押して歩く等)。 障害者支援センター○・OT ・手指の感覚については、いろいろな感触のものに触れ、握ったり、押したりといったことからはじめ てみるとよい。	

※ 支援経歴は、必要に応じて加えていく。

個別の移行支援計画

(記入例)

本人のプロフィール					記入者 ()	
氏 名	○ ○ ○ ○	フリガナ		男 女	生年月日	平成 年 月 日
住 所					連絡先	
保護者		住 所			連絡先	
出身校	長野県○○特別支援学校	担 任			連絡先	
将 来 の 生 活 に つ い て の 希 望						

- ・将来は、家庭から出て、グループホームまたはケアホームでの生活に移りたい。そのためには作業所ではできる仕事内容を増やし、給料をもらえるようになりたい。
- ・高等部在学中に入会したダンスサークルに週1回参加し、友だちと会いたい。

本人・保護者の希望を記入します。優先順位をつけて記入するのもよい。

必 要 と 思 わ れ る 支 援 の 内 容

- ・将来の希望する生活に向けて、グループホームまたはケアホームへの移行を考えたい。また一人暮らしに向け、家庭での食事の準備片付け、掃除、洗濯等を身につける機会を持つようにしたい。
- ・作業所では、本人の体力を考えて○○班でスタートするが、しばらく様子を見た上で、本人が希望している班への所属も検討してもらう。
- ・仲間との余暇活動を考え、ダンススクールへの参加を継続させたい。

本人・保護者の希望及びニーズを踏まえ、検討し、関係機関と連絡を取り、助言をもらいながら記入する。

具 体 的 支 援

家庭生活	進路先の生活	医療・健康	余暇・地域生活	出身学校の役割
担当者: 保護者 連絡先: 内容: 休日には、食事・洗濯等の手伝いをする。毎日、帰宅後の様子を見守り、作業所での様子をつかむ。 担当者: 福祉課 連絡先: 内容: グループケアホームを保護者	担当者: □□作業所 △△主任 連絡先: 内容: 作業の状況を見て、所属班、作業内容を検討する。昼食時、休憩時に利用できる場所を確保する。	担当者: 主治医 △△Dr 連絡先: 内容: てんかんの発作は5年以上見られないが、引き続き定期的に通院し服薬する。	担 当 者: ダン スサークル◇◇ 連絡先: 内容: 参加状況を把握し、作業所での悩み等があれば学校関係者または保護者へ連絡する。	担当者: 元担任 連絡先: ○○特別 支援学校 内容: 関係機関との連絡を取り、本人の希望する支援について相談会議を設定する。保護者及び事業所との連絡を取り、入所直後と様子について、いねいに状況を把握する。

日常生活、金銭管理、福祉サービス、住む場所等、必要な時期に適切なサービスが受けられるようにしておく。

申し込をする。

職場、環境、また休憩時や通勤の方法等、本人に対する支援を確認する。

「個別の教育支援計画」に記載されている関係機関と、引き続き連携を取っていきたい。

相談窓口として役割も大切である。各関係機関のネットワークを調整しながら情報交換や「相談会議」等を行いたい。

上記の支援を希望します。

平成 年 月 日

氏名

印